

なぜ増えない自然エネルギー

2013年10月26日
朝日新聞

日本における太陽光、風力などの自然エネルギー利用は、電力量の1.6% (2012年度水力を除く)と極めて少ない。

2012年7月に自然エネルギー発電を電力会社が買い取る「全量固定価格買い取り法」(FIT法)が施行されたが、それでも伸び悩んでいる。

発電所を造りたい人は多いのに電気を送電線に受け入れる体制が不十分な上に、大規模発電が期待できる風力が、過剰規制などで増えないためだ。

自然エネルギーの現状

原発事故後も自然エネルギーは少ない

日本の発電電力量の構成

水力を除く自然エネルギー 1.6%



資料から
電気事業者連合会の

建設・発電開始までこんなに時間がかかる



規制が多い!

「農地は原則的に他の用途に使えない」とする農水省の厳しい「農地転用禁止」だ。

太陽光パネルを張るのも、風車を建てるのも原則禁止。

こういった事情で、FITはアンバランスな格好でスタートした。制度開始1年の2013年6月末段階では、FITで認定された発電設備は合計2291万キロワットだが、その86%が中小規模太陽光。住宅用太陽光が7%、風力4%、バイオマス3%、中小水力、地熱はごく少ない。

認定は太陽光に偏り、その太陽光も送電線の受け入れが少ないためあまり建設が進んでいない。

採算性が見込める各電力会社管内の導入可能量

陸上風力発電。2012年度、環境省による。1kWhの買い取り価格22円で計算。広域運用の限界などは考えていない。単位は万kW



風力発電が増えない理由 ①=対策

- 送電線に接続できない
①官民で送電線を建設。もっと広域的な運用を
- 農地に建てられない
①規制緩和するかどうかを議論中...
- 環境アセスメントに時間がかかる
①国が調査を肩代わりする試み。なるか期間の半減?

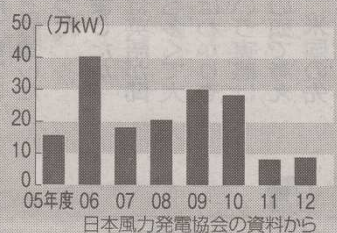
風力発電は難しい

送電線には接続できないし...
鳥も気になるし...
北海道、東北、九州にはいい風が吹いているのに

自然エネルギーは地域の産業資源

日本の風力発電の導入は伸びていない

年度別風力発電導入量(単年度容量)



日本風力発電協会の資料から

最近の風車はこんなに大きい



世界では、低コストで大量に発電できる風力が自然エネルギーの柱だ。

日本で風力を増やせないのは、技術的な問題ではなく、制度、運用に問題がある。

地上風力の導入可能量は、全国で1億6582万キロワットもある。しかし、

- 「送電線への接続難(広域運用に消極的な電力会社)」
- 「環境アセス(現在は3年かかる)」
- 「農地転用禁止」という三つの壁が立ちはだかる。

参考情報

風力発電の現状は日本風力発電協会(JWPA)のHPに、FITの認定状況は資源エネルギー庁のHPに詳しい。

グラフィック:高橋 亮知